

研究主題

習得した知識・技能を結び付けながら、主体的・対話的で深い学びを実現できる生徒の育成
～評価からの授業改善を通して～

1 主題設定の理由

子供たちの学力については、国内外の学力調査によれば近年改善傾向にある。しかし、判断の根拠や理由を明確に示しながら自分の考えを述べることなどについては課題が指摘されている。また、学ぶことの楽しさや意義が実感できているかどうか、自分の判断や行動がよりよい社会づくりにつながるという意識を持っているかどうかという点では、肯定的な回答が国際的に見て相対的に低いことなども指摘されている。

これを受けて、学習指導要領の改訂に向けての議論が進み、中央教育審議会答申（2016）では「学びの成果として、生きて働く『知識・技能』、未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』、学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性等』を身に付けていくためには、学びの過程において子供たちが、主体的に学ぶことの意味と自分の人生や社会の在り方を結び付けたり、多様な人との対話を通じて考えを広げたりしていることが重要である。また、単に知識を記憶する学びにとどまらず、身に付けた資質・能力が様々な課題の対応に生かせることを実感できるような、学びの深まりも重要になる」と指摘している。つまり、子供たちの「主体的・対話的で深い学び」を実現するための共有すべき授業改善の視点とその位置付けが明確に示されたことになる。

また、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通して各教科における資質・能力を確実に育成する上で、学習評価は重要な役割を担っている。平成29年度改訂の中学校学習指導要領総則では、新たに「学習評価の充実」の項目が以下のように示されている。

- ・生徒のよい点や進捗の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、各教科の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材などの内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の課程や評価を工夫し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成を生かすようにすること。
- ・創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、組織的かつ計画的な取組を推進するとともに、学年や学校段階を超えて生徒の学習の成果が円滑に接続されるように工夫すること。

このように、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うと同時に、評価の場面や方法を工夫して、学習の課程や成果を評価することを示し、授業の改善と評価の改善を両輪として行っていくことの必要性が明示されている。

以上のことから、評価からの授業改善を通して習得した知識・技能を結び付けながら、主体的・対話的で深い学びを実現できる生徒の育成が必要であると考え、本研究主題を設定した。

2 研究のねらい

評価からの授業改善を通して、習得した知識・技能を結び付けながら、主体的・対話的で深い学びを実現できる生徒の育成を究明する。

3 研究の方法

- (1) 問題解決型の授業を日常化することで、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。
- (2) 発問や問いかけを工夫することで、習得した知識・技能を関連付けて考察・表現する授業実践を行うことで、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。
- (3) 評価からの授業改善を通して、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。

4 研究の内容

(1) 基本的な考え方

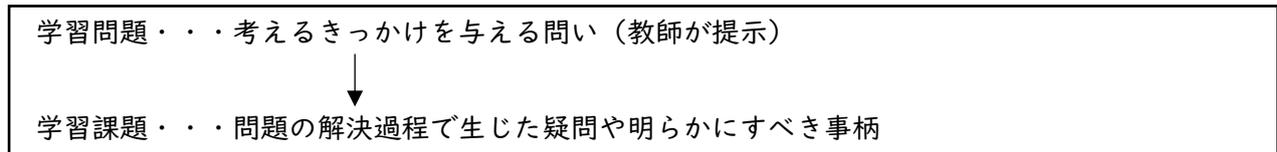
ア 問題解決型の授業について

中央教育審議会は論点整理の中で、学びを通じた子供たちの真の理解、深い理解を促すためには、主題に対する興味を喚起して学習への動機付けを行い、目の前の問題に対しては、これまでに獲得した知識や技能だけでは必ずしも十分ではないという問題意識を生じさせ、必要となる知識や技能を獲得し、さらに試行錯誤しながら問題の解決に向けた学習活動を行い、その上で自らの学習活動を振り返って次の学びにつなげるというプロセスが重要であると述べている。

関連して、「中学校学習指導要領解説数学編」には、「通常の授業と課題学習」の中で次のようなことが述べられている。

通常の授業では知識を一方向的に教え込み、課題学習では主体的な学習を促すということでは、これまで述べてきたような課題学習の指導は難しい。通常の授業においても生徒の主体的・対話的で深い学びとして問題解決的な学習を定着、充実させていくことが求められており、課題学習では一層その充実が必要である。

これらを受けて、本研究では、日常の授業の中で、生徒自ら「なぜ」「不思議だ」「おかしいな」といった疑問をもつことから「問い」をつくり、そこから課題を明確にして学習活動が行われるようにしていくことを問題解決型の学習と定義する。問題と課題の関係は次のようにする。



また、問題解決型の学習は、結果だけではなく問題の解決の過程を重視する授業である。つまり、問題解決の過程で既習の知識や新しい知識を関連付け、各教科の見方や考え方などを同時に身に付けさせていく学習指導である。

イ 習得した知識・技能を関連付けて考察・表現することについて

「知識」については、事実に知識のみならず、学習過程において試行錯誤するなどを通じて、新しい知識が既得の知識と関連付け構造化されたり、知識と経験が結びつくことで身体化されたりして、様々な場面で活用できるものとして獲得され、いわゆる概念的な知識を含むものであるとする。つまり、概念的な知識とは事実に知識を相互に関連付けて、より深く理解したり、活用したりする中で習得されていくことになる。また、技能は事実に知識と概念的知識を関連付けていく中で、洗練されているということができ、知識と技能は深く関連付けられるものであるといえる。

ウ 主体的・対話的で深い学びについて

主体的・対話的で深い学びとは、生徒が自らの学びの意義や目的を見出し、他者と協働しながら、深い理解を追究する学びの在り方である。これは、学習指導要領の中核を担う考え方であり、以下の3つの要素から成り立っている。

・主体的な学び

生徒が学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげること。

・対話的な学び

生徒同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、生徒が自己の考えを広げ深めること

・深い学び

習得・活用・探究といった学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた見方や考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見出して解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かうこと。

エ 発問や問い返しを工夫について

問題解決型の授業は、教師の授業力が求められる授業である。説明中心の授業や教科書どおりに教える授業に比べて、授業力がなければ問題解決の授業を日常的に行うことは難しい。

問題解決の授業を進める中で特に必要とされる授業力は次の2点であると考えられる。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ 生徒の考えを把握して授業に生かす力・ 適切な発問をして生徒とやりとりする力 |
|--|

生徒が主体的に学習することを大切にしつつ、授業の目標を達成するためにはこのような授業力を高めることが大切になってくる。「～はなぜですか。」「～にはどうすればよいですか」など、考え方を問う発問や「～の意味はわかりますか。」「～で困っていることはありませんか。」「～はつまりどういうことですか。」など生徒に問い返すことを通して全体で確認をしたり、共有をしたりすることで生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図っていききたい、

オ 評価について

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通して各教科における資質・能力を確実に育成する上で、学習評価は重要な役割を担っている。平成29年改定の中学校学習指導要領総則では、新たに「学習評価の充実」の項目が置かれた。従来からの「生徒のよい点や進捗の状況などを積極的に評価」することに加え、新たに「学習したことの意義や価値を実感できるようにすること」や「単元の内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫」することなどが示されている。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うと同時に、評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価することを示し、授業の改善と評価の改善を両輪として行っていく必要性を明示している。また、行方市教育委員会から提示された学力向上の取組として次の3点が具体的に挙げられている。

- ・評価力（目標を理解し、指導したことを目標に照らし合わせて見取る）
- ・授業改善（見取ったことを指導に生かす）
- ・子供の実態に即した授業改善

このように、指導と評価の一体化を目指した授業改善を推進していく。

(2) 主題に迫るために

ア 授業力パワーアップ訪問及び国立教育政策研究所笠井先生による授業公開による研修

- ・ 8月9日 理論研修（鹿行教育事務所）
- ・ 9月25日 英語科 パワーアップ訪問
- ・ 9月26日 数学科 パワーアップ訪問
- ・ 11月20日 数学科 笠井先生による授業参観及び指導・助言
- ・ 12月12日 国語科 社会科 パワーアップ訪問

イ 職員研修

- ・ 発問シートの作成
- ・ 5教科の担当教師による教科会（月1回程度）
- ・ パワーアップ訪問や指導教諭による動画での授業参観及び研修

【発問シート】

教科の発問	英語科（評語表・進路学習）	理科（動物の習性・虫かごの対話等）	深い学び（個性化学）
英語	What do you think about...? 「...についてどう思う?」 How do you think about...? 「...をどう思う?」 Please tell me about... 「...について教えてください」	Share your opinions with your friends. 「意見を友達と共有しよう」 Discuss with this word cards. 「この言葉の意味を話し合おう」 Please explain the culture of this country. 「この国の文化を説明しよう」	What do you need to make... better. 「...をよりよくするために必要なことは?」 比較・対照・関連付けする表現を使う
国語	この国語をどうも山田のようにするのはなぜだろうか。 「作者の考えは、どのような理由から導かれたのだろうか」 「筆者の考えをわかりやすく伝えるためにはどのような工夫が必要だろうか」 「自分の話し方を聴いて感動し、より魅力的にする方法を考えよう」	この国語をどうも山田のようにするのはなぜだろうか。 「作者の考えは、どのような理由から導かれたのだろうか」 「筆者の考えをわかりやすく伝えるためにはどのような工夫が必要だろうか」 「自分の話し方を聴いて感動し、より魅力的にする方法を考えよう」	この国語をどうも山田のようにするのはなぜだろうか。 「作者の考えは、どのような理由から導かれたのだろうか」 「筆者の考えをわかりやすく伝えるためにはどのような工夫が必要だろうか」 「自分の話し方を聴いて感動し、より魅力的にする方法を考えよう」
数学	この問題を考えてみましょう。 「何を考えようか」 「どうやって解くか」 「この問題が面白いと思うか」	この問題を考えてみましょう。 「何を考えようか」 「どうやって解くか」 「この問題が面白いと思うか」	この問題を考えてみましょう。 「何を考えようか」 「どうやって解くか」 「この問題が面白いと思うか」
社会	【地理】 ○地方では、○なのだろうか。 【歴史】 ○が、○ということを実行した理由はなんだろうか。 【公民】 ○は、今の国にどのようにして実用されているのだろうか。	【地理】 ○が、○ということを実行した理由はなんだろうか。 【歴史】 ○が、○ということを実行した理由はなんだろうか。 【公民】 ○は、今の国にどのようにして実用されているのだろうか。	【地理】 ○が、○ということを実行した理由はなんだろうか。 【歴史】 ○が、○ということを実行した理由はなんだろうか。 【公民】 ○は、今の国にどのようにして実用されているのだろうか。

教科	発問
英語	ヒントカード（必ずしもキーワードを尋ねる） 「...」をよりよくするために必要なことは?」 比較・対照・関連付けする表現を使う
国語	「作者の考えは、どのような理由から導かれたのだろうか」 「筆者の考えをわかりやすく伝えるためにはどのような工夫が必要だろうか」 「自分の話し方を聴いて感動し、より魅力的にする方法を考えよう」
数学	「何を考えようか」 「どうやって解くか」 「この問題が面白いと思うか」
社会	【地理】 ○が、○ということを実行した理由はなんだろうか。 【歴史】 ○が、○ということを実行した理由はなんだろうか。 【公民】 ○は、今の国にどのようにして実用されているのだろうか。

【パワーアップ訪問の様子】



5 成果と課題

(1) 生徒の意識調査

【主体的な学びに関する項目】

【質問内容①】授業に主体的に取り組んでいる。	
令和4年度 2月	83%
令和5年度 2月	91%

【質問内容②】課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	
令和4年度 2月	77%
令和5年度 2月	96%

【対話的な学びに関する項目】

【質問内容③】友達と話し合うとき、自分の考えを受け止めて、自分の考えをもっている。	
令和4年度 2月	83%
令和5年度 2月	90%

生徒の意識調査からは、今回の仮説に対して一定の成果が見られた。通常の授業においても生徒の主体的・対話的な学びを目指した問題解決的な学習が実践されていることがわかる。

(2) 生徒の姿から

ア 問題解決型の授業を進め、教師が適切な質問を通して生徒と対話し、「なぜですか」「どうすればよいですか」などの問い返しをすることで生徒の考えを引き出し、全体で共有することで課題への興味・関心が高まり、主体的に学ぶ姿が見られるようになってきた。

イ 評価からの授業改善を軸とし、教師の発問や生徒への問いかけを工夫したことで、生徒が学習に見通しをもち、お互いに意見を交換しながら課題を解決することで、対話的で深い学びの実現を図ることができた。

(3) 今後の課題

ア 生徒の実態に合った、計画的な学び直しや再指導が急務である。

イ 日頃の授業においては、知識を一方向的に教え込むような授業は改善されつつある。今後も問題解決型の授業を実践しつつ、授業中や授業後の生徒の姿を評価し、授業の工夫・改善の取組をさらに推進していく必要がある。

ウ 知識及び技能の確実な定着のために、問題解決の過程で習得した知識・技能を活用したり、結び付けたりすることで課題解決に向かわせ、実感を伴った理解を数多く経験させる必要がある。